



発行：救いの光教団
編集：神 成 編 集 室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2023
No.614
10月号

誠

己も己も

誠心に立還り

神の光に魂照らせかし

神知らぬ

人の誠は形のみ

神知る人の誠ぞ真なる

拙なくも

誠に出づる言の葉は

人を動かす力ありけり

御姿「揚柳観音」解説

三十三観音の一つ。柳の枝を手にとって、人々の病気を治すことを本誓とするといひ、薬王観音とも呼ばれる。



◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪

ひろげよう仲間の輪

築き上げよう愛と活気あふれる教団を

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

神言霊

誠の有る無し

誠のあるなしを最も簡単に知る方法を書いてみよう。誠のある人は何よりも約束を重んじ、よく守る事である。単に約束を守る守らないだけでは大した事とは思えないが、実を言うとなかなかそうではない。即ち約束を守らないという事は、人を偽った事になるから一種の罪悪を犯した事になる。約束の中でも一番軽視し勝ちなのは時間である。時間の約束をしておき乍ら守らない事をよく考えてみるがいい。即ち先方は当にして待っている。

下座の行

下座の行という詞は昔からあるが、之は人間処世上案外重要事である。しかも信仰者に於いて殊に然りである。信仰団体などに、教義を宣伝する先生に、どうも下座の行が足りないように見える事が屡々ある。昔からの諺に「能ある鷹は爪隠す」とか、「稔る程頭を垂れる稲穂かな」などという句があるが、何れも下座の行をいうたものである。

威張りがたがる、偉く見せたがる、物識りぶりがたがる、自慢したがるというように、たがる事は反って逆効果をもたらすものである。少し許り人から何とかいわれるようになると振りがたがるのは人間の弱点であって、今迄世間一般の業務に従事し、一般人と同様な生活をしていた者

るのでその退屈や焦心はなかなか苦痛である。諺に曰う「待たるる身になるとも待つ身になるな」という事でも判る如く、待っている人の心持を察すべきで、其の心が湧かないのは誠がないからである。とすれば外の事は如何に良くても何にもならない事になる。従って神の信者たる者は約束の厳守、時間の励行を疎かにしてはならない。もしその実行が出来ないとすれば、先ず信仰の落第生である。信者たるものよろしく肝に銘じて忘れてはならないのである。

(昭和二十五年一月二十八日)

や、社会の下積みになつていた者が、急に先生といわれるようになる。「俺はそんなに偉く見えるのか」というように、最初は嬉しく有難く思っていたのが、段々日を経るに従い、より偉く見られたいという欲望が、大抵の人は起こるものである。それ迄は良かったが、それからがどうも面白くない。人に不快を与えるようになるが、御本人はなかなか気が付かないものである。

神様は慢心を非常に嫌うようである。謙譲の徳といい、下座の行という事は実に貴いもので、文化生活に於いて殊にそうである。多人数集合の場所や、汽車電車等に乗る場合、人を押し除けたり、良い座席に傲然と座したがる行動は、一種の独占心理であって面白くない。円滑に気持ちよい社会を作る事こそ民主的思想の表れであって、此の事は昔も今も些かも変りはないのである。

(昭和二十四年六月十八日)

令和五年八月一日
教団創立五十一周年記念祭「おことば」

救いの光教団創立のお許しを
頂きましたのが、一九七二年（昭
和四十七年）八月一日

【みつめ直そう 明主様のころろ】
【貫き通そう 明主様のころろ】
を旗印として

○明主様への純粹なる信仰を
貫かせていただくため

○明主様の神言霊を守らせて
いただくために新しい第一
歩を踏みださせていただき
ました。

八月は、私達救いの光教団にと
りまして、いつも非常に記念すべ
き月でございます。

この教団は、私達が神様と直接
結びをもたせていただく場とし
て、また、私達が、少しでも神様
からいただいております使命を十
分に果たさせていただくための勉
強の場、信仰向上の場として、神
様が私達に与えてくださったのだ
と思うのでございます。

この教会を恵んで下さいまし
た神様に対しまして、私達は心か
ら感謝のお祈りを捧げさせていた
だきたいと思ひます。また、この
私達の教団がただただ表面的な形
ではなくて、この教団の中の私共
一人ひとりの信仰が、本当に純粹
に貫かせていただけるようになら
せていただかなければいけないと
思うのでございます。

昨年末、教団の状態に対し、た
だだ皆様にお詫びいたすのでこ

ございます。まことに申し訳ござい
ません。

それだけに、今度は、私共一人
ひとりの信仰、魂が本当に、明主
様への純粹な信仰を貫かせていた
だくように、努力に努力を重ねて
まいりたいと思ひのでございます。

もしもその信仰がなくなつた
り、ゆがんでしまつたら、これは
いくら形が立派に見えても、それ
こそ害がでてくることになつてし
まうわけでございます。

そういうことがないように、私
共一人ひとり、本当にそういう純
粋な信仰を保たせていただきたい
と思ひのでございます。

教団のお許しをいただきまし
たことに対しましての感謝のお祈
りを、教会、教団記念祭に、皆様
とともに捧げさせていただきます
と思ひのでございます。

（創立記念祭神歌）

『惟神 今日（けふ）の古き日（ふるひ）を迎えてゆ

いと小さき型より始まるものなり』
《型》大きなお仕組も、小さな
雛型としてのたとえば一軒の家を
天国化していくというようない
とも小さな型の働き

教団の活動と申しまして、信
者の一人一人の身辺の活動からは
じめられることが大切で、そうい
う活動は、すぐには社会的に、大
きな比重を占めるまでにはいたら
ないかもしれませんが、弛まず、
励んでいるうちに、やがては、必

ず世界を動かすほどの大きなもの
になり、結局は、地上天国が完成
されるということを仰っております。

型ということ、このようにな
れわれ個人の実践という意味に、
受けとらせていただくことも大切
であります。

大神様が、この地上に天国を建
設されるべく仕組まれた、そのお
仕組ほど大きなものではありません。
けれどもそのような大きいお仕組
も、小さなひな型としての、たと
えば一軒の家を天国化していくと
いうような、いとも小さな型の働
きからはじまり、それがやがて世
界中に広まって、達成されていく
ものである。と仰っております。

《仕組》《経綸》という言葉は、
本教ではよく使われますが、〃仕
組〃とは、神様が御目的を果たさ
れるために、あらかじめいろいろ
計画されることであり、〃経綸〃
とは、それを実施にうつされたこ
とでございます。



『おことば』を述べられる光守様

感謝奉告

窪田 八千代

〈長岡教会 新潟光導所〉

六月十一日（日）の夕方に東京本

部へ入り、一泊させて頂いてから、翌
日十二日（月）に鋸山へ向かう予定
でしたが前の日からあいにくの雨で、
当日朝も雨が降っていたのですが、
午後から晴れるかもしれないとの予
報でしたので、本部の境さんから
箱根の奥津城と美術館を見学するコ
ースト、午前中に箱根の奥津城だけ
お参りして、昼から鋸山へ向かうと
いう特別コースと、どちらがいいで
すか？という提案を頂き、すぐに、箱
根と鋸山の両方が良いと決めました。

十二日の朝は予定よりも早く八時
二十分に出発したのですが、光守様
が、わざわざご自宅から本部へ見え
られ、お見送りをして頂き、感激の
内に、車に乗り箱根に向かいました。

明主様の奥津城へは十時に到着
しました。小雨の降る中、ウグイス
が鳴いておりとても閑静で、厳肅な
中、皆で善言讃詞を上げさせて頂き、
十五年ぶりに御参拝が出来て、すご
く感動しました。

十時四十分、次なる鋸山に向かい
出発しました。時間短縮の為、移動
する車の中で、おにぎりを頂き、午
後一時に鋸山山頂駐車場に到着。

お天気は、予報が外れ小雨でした
が、駐車場からまず初めに、明主様
が天啓を受けた記念碑が建てられて
いる場所を目指しました。そして、
次にいったん駐車場まで下りて、別
コースで山頂一つ手前の休憩所まで
登り、「地獄のぞき」と言われる崖
を見ってきました。登りは全て階段で
いつになったら着くのかと思ひ、休

み休み登ったのが忘れられない思い
出となりましたが、登りついた時の
あの感動は、明主様に生かされてい
ることに感謝でいっぱいでした。

二時五十分に帰路につき、東京湾
を横断するアクアラインの中継点の
「海ほたる」でトイレ休憩とお土産
を買い、東京本部へは四時三十分
に無事到着しました。ここでも光守
様にご自宅から本部へ見えられ、無
事に明主様のみあとを偲んで来られ
た事への労をねぎらって頂き、本当
に感謝でいっぱいでした。

この度の事を振り返ると、鋸山は
雨の為、本来見えるはずの『地球が
丸く見える』景色は全く見えず、一
面霧の中でしたが、逆にこの雨のお
かげで、箱根と鋸山の両方の明主様
のみあとを偲ばせて頂けたことが、
本当に奇跡的な出来事で、雨に感謝
でいっぱいです。

この総行程三百四十kmを運転、道
案内して下さりました戸塚先生並び
に境さんありがとうございました。
また、この長距離を共に旅して頂い
た甲斐さんとお母様の内山静子さ
ん、ありがとうございます。楽し
い思い出を作らせて頂きました。

大光明、明主様厚きご守護賜りあ
りがとうございます。

光守様いつもいつも温かく見守
りいただきありがとうございます。
これで感謝奉告を終わらせて頂
きます。



雨の中辿り着いた展望台

窪田 郁美

〈長岡教会 新潟光導所〉



五月五
日（金）に、
神成郷へ
家族六人
で赴き、草
むしりを
行いました。ゴールデンウィーク真
っ只中なので渋滞を覚悟していた
のですが、特に渋滞する事もなくス
ムーズに現地へ着くことができました。

草むしりをしていると、私は今ま
で経験したことのない位の腰痛に
襲われました。それは立っているの
も座っているのも、歩く事でさえ辛
く、私だけ作業を途中で抜けて横に
なっていました。翌日は観光をする
予定だったので心配していましたが、
夜、御浄霊を頂いて何とか運転
できるくらいまで回復し、観光も楽
しめました。

また、その観光についても、天気
予報では当初朝から雨だったのです
が、当日は晴れて、帰るころまで天
気が持ちました。帰りも特に渋滞に
巻き込まれることなく無事に帰宅す
る事ができました。

須玉神成郷へ草むしりに行けた
事、渋滞に巻き込まれなかった事、
腰痛がマシになったこと、全て御守
護だと思ひます。

大光明、明主様厚き御守護賜りあ
りがとうございます。
光守様いつも見守りいただきあ
りがとうございます。

輝霊光吉宝殿ご参拝

あいかわらずの猛暑日が続いた八月二十一日、光守様のお供で須玉輝霊光吉宝殿に御参拝にあげました。

お盆中の御参拝を予定していたのですが、叶わず少し遅れての御挨拶のお参りとなりました。

光守様は輝霊光に眠る御霊様^{みたま}に対する深い祈りのあと、二十体の御遺骨と御遺影一つ一つに神成郷終い納めのお詫びと、九月に迎えます東京本部

輝霊光納斎殿への御遷骨を報告していらつしやいました。東京への御遷骨を御魂様はどのよ



宗主家の御遺骨祭壇に移し御参拝される光守様

輝霊光納斎殿経営認可

昨年の春ごろより輝霊光吉宝殿を東京本部内に移転する計画を進めて参りましたが、令和五年八月二十八日に世田谷区保健所より経営許可を頂きました。

納骨堂を設置するには多くの法律や条例が関わっていて、建物の構造や区画、教団の財政状況また周辺住民の承諾を得ることなど、書面資料の提出や、住民説明会の実施など一つ一つクリアし



経営許可書

輝霊光吉宝殿終い納め参拝

東京本部に輝霊光納斎殿が完成し世田谷区保健所より経営許可が下りましたので、早速九月七日に光守様お出ましを賜り、須玉神成郷輝霊光吉宝殿に於いて、輝霊光吉宝殿終い納めと御霊様御移動の御参拝をさせて頂きました。

今年は猛暑が続いた日々でしたが、やっと暑さも納まった日とな



終い納め参拝

御霊様御移動と輝霊光納斎殿祀り込み参拝



祀り込み参拝

九月七日に御霊様に御移動の御奉告参拝の後、御遺骨を一体一

体丁寧に教団車に納め、同時に御遺髪、御髪と共に東京本部に御移動いたしました。その日のうちに輝霊光納斎殿に安置させて頂いた

き、明けて八日に光守様御臨席の下、御霊様の祀り込み参拝の中に御移動完了の御奉告をさせて頂いた



祀り込みを無事納めお喜びの光守様

どうか明主様の御遺髪の御許に御遺骨、御遺髪、御髪を納斎させて頂いた

トピックス

御神輿がやってきた！

北澤八幡神社例大祭に新型コロナウィルス感染防止で中止されていた御神輿巡行が四年ぶりに行われた。

九月二日十五時三十分こどもの神輿が元気のいい掛け声とともに当教団にやって来た。コロナ前は毎年こども神輿が教団に寄って休憩の場ともなっていた。新野こども連は親とこどもさん百五十名ぐらいで、この都会にこんなこどもが居るのかと驚くほどの数だ。



光守様とこどもたち



新野連のみなさん



こども神輿「わっしょい！」

『塩梅良い』

塩梅よい料理に慣れてしまうと、その有難さに感謝の念を忘れてしまうようです。

日頃から塩梅良い料理を作って下さる方々のためにも、たまには塩梅の悪い料理を食べる機会を持つことは良いことです。心の入っていない料理には興ざめてしまいます。

ご飯のよそい方、盛りつけ、温度、塩加減等々。なにも料理屋さんのような料理を求めているわけではありません。

相手を思って提供して下さるかどうかで、料理を作らない私が、このような生意気なことを申しあげるには理由がございます。

東京教会の田上さん、長崎さんをはじめ各教会で提供して下さるお料理に心が入っていることを、はずかしながら最近強く感じるようになったからです。「塩梅の良さ」に今更になって気付きはじめました。

光守の思い

私は心配して言いもしたら「大丈夫よ、会長が一人でしきるから」と言われました。心のこもった会議というものは、そんなものではないですね。

信徒代表の方々も、興ざめし慣れてしまい、すっかり声を上げることがあきらめてしまっているのではないのでしょうか？教団側も、かえってその方が「都合良い」ようではないでしょうか。

信徒の皆さまに「光守様、どのお口が言っているのですか？」と、言われそうです。

信徒代表をはじめ、信徒の皆さま、志（ころざし）のある方は、これからは恐れず荒波を立てていただき、そしてその意見を、信徒代表の方々が集約して、教団の改善に力を貸して下さいませ。そして、心無い『都合の良い』教団から、明主様にほめられる心ある『塩梅の良い』教団へと舵を切って欲しいのです。

先日、ある信徒代表の方から、教団の危機を切実に訴えた手厳しい意見をいただきました。本当に有難うございます。



創立記念祭で玉串を奉奠される光守様

岡田茂吉の自然農法

伊那水田 稲の出穂（しゅっすい）

例年、教団伊那水田では八月に入ると出穂（しゅっすい）といって、穂が出始めるようになり、お盆過ぎには全ての水田で穂が出揃います。さて、今年の水田の状況ですが、八月八日に穂が出始め、そこから徐々にありますが出穂が増えてゆき、八月お盆を過ぎた十九日には三枚の水田全てで穂が出揃いました。昨年よりも若干完全出穂が遅いようでしたが、今までの記録と比べると許容範囲内であり順調といえるでしょう。

以上は伊那水田の状況でしたが、長野県全体での稲生育状況はどの様になっていますでしょうか？調べてみますと同じように平年並みという事でした。八月は全国的に酷暑が続く、更に地域によっては深刻な水不足に悩まされ、稲栽培や農業にも被害が出ている事例もあるようですが、幸いにも長野地域は悪い影響は無かったようです。ただし、今後九月にかけての気温が平年よりも高いそうなので、それが何かしらの影響をもたらさないか？稲刈り前まで懸念は尽きませんでした。が、神様からの御守護を頂けるものと信じて、九月末の稲刈りまで水田の管理など、自分たちの出来ることをさせて頂きました。



8月19日 穂が出揃った稲の様子

教団人事異動

令和五年七月一日

戸塚 大介

富士宮光導所長 任命

令和五年九月一日

戸塚 大介

東京教会副教会長 任命

火水土の恵み感謝祭 挙 行

令和五年十月二十三日（木祝）

午前十時

救いの光教団

東京本部